



景況DI値は横ばい。 しかし、多くの業種で原材料の高騰を懸念

概況(全体)

6月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが6.7% (前回調査8.3%)、「悪化」が55.0% (同58.3%) で、業界全体のDI値は-48.3となり、前月調査と比較し1.7ポイント回復した。

全国及び東北・北海道ブロックの景況は足踏み状態が継続している。

半導体・電子部品、自動車関連等の製造業は、一部指標がプラスに転じるなど、回復傾向にあるものの、原材料価格高騰の影響を受ける業種や、小売業、サービス業などの非製造業は引き続き景況は低迷している。

業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数が減り、「悪化」したとするところが増加した。

非製造業においては、「好転」とする回答が微増となり、「悪化」と回答する業界が減少している。

結果として業界全体のDI値は横ばいに推移しているが、依然として景況感には業種別で大きな差がある。また、多くの業界が、燃料等原材料の高騰を懸念している。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-48.3	-31.4	-31.8
製造業	-50.0	-23.8	-26.7
非製造業	-47.2	-37.1	-34.6

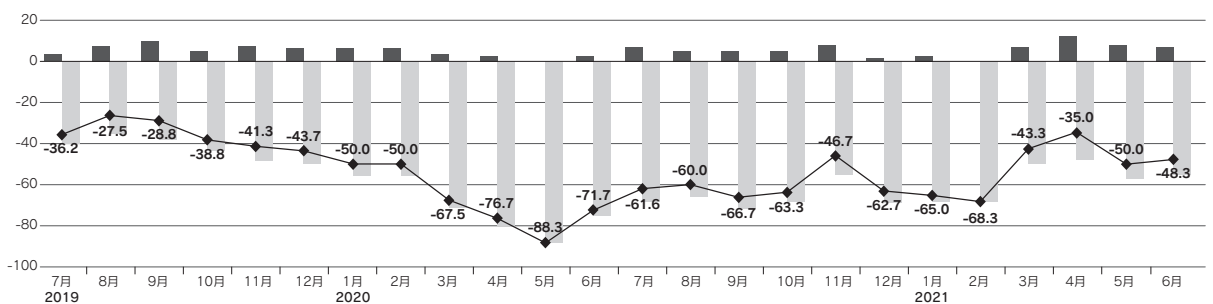
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	晴れ	曇り	雨	曇り	雨	雨	雨
非製造業	晴れ	曇り	雨	曇り	雨	雨	雨

[凡例]
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △30未満
 雷雨 △30未満
[天気図の見方]
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

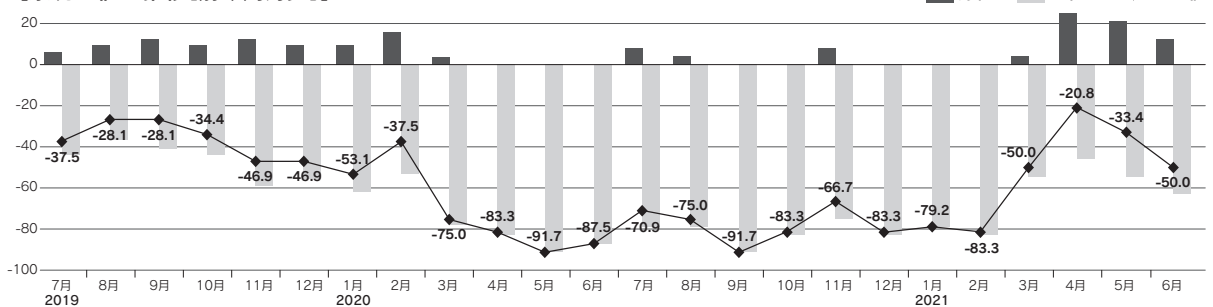
業界全体

【景況DI値の推移[前年同月比]】



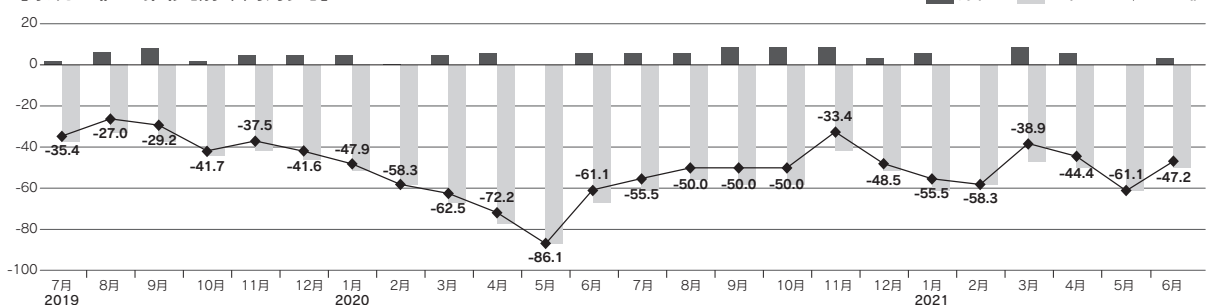
製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



非製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品(豆腐)】

原材料大豆、食用油などが値上がり、コストが上昇するも、大手企業の値上げの動きがないため、コストの増加分を価格に転嫁できず、利益は減少している。また、長引くコロナウイルス感染拡大の影響により、取引先となる飲食店等の休業や廃業が増加しており、状況は極めて厳しい。

【食料品(菓子)】

人の動きが少ないと同時に物の動きも悪く、売上の落ち込みが厳しい状況にある。そのような中、原材料コストも高騰しており、売上に対する利益が減少している。

【繊維工業(ニット)】

工場が受ける衣料製造に関する本来の仕事は昨年より増加しているが、コロナ前の水準には程遠い状況である。昨年同月は政府管掌の医療用ガウンの納品が本格化した時期であったが今年は無いため、昨年より稼働が落ちている工場が多い。

【木材・木製品(一般製材)】

ウッドショックにより引き続き製品価格が上昇している。しかし、生産能力は頭打ち状態で、納期が確約できないほか、価格は納品時に決まるような状態が続いている。さらに、原木の供給量が不足しており、注文に対応できるだけの仕入れが困難な状況である。

【窯業・土石製品(生コンクリート)】

6月の出荷量は前年比111.3%。4月～6月累計では98.2%となった。大館北秋地区のトンネル工事、秋田市の文化施設、市立病院、本荘由利地区の民間の建物、県南地区のダム関連工事で前年を上回ったが、7月以降は不透明。

【鉄鋼・金属(鉄鋼)】

オリンピック・パラリンピックが直前に迫ってきたこともあり、首都圏の鉄骨工事は大会終了まで大きく動かない状況になっている。また、春先から続いている鉄価格の高騰は、加工費だけでその値上がり分を吸収できないところまできている。今後は材料の値上がり分を価格に転嫁していく必要があるが、容易なことではない。

【一般機器(金属加工)】

半導体業界の回復により、受注は増加傾向である。鋼材ははじめ原材料価格は高止まり傾向にあるが、販売価格への転嫁は依然として厳しい。

【その他の製造業(曲げわっぱ)】

ウッドショックにより、木材価格が高騰しており、原材料の秋田杉にまで影響が及んでいる。現在のところは、その動向を見守ることができないが、材料の仕入れやコストの増加など影響は少しずつ出てきている。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業(青果)】

新型コロナの感染が続き、飲食店向け、土産、旅行関連等が特に苦戦している。先行きが見通せない中ではあるがなんとか売上げ・収益確保に向け努力している。一方、コロナに左右されない業種については現状を維持しているところが多い。

【小売業(みやげ品)】

売上の前年同月比としては13%減少という結果であった。新型コロナウイルス感染拡大以前である前々年同月比では83%減である。依然として業況は回復しているとは言い難い。

【小売業(電機)】

半導体の不足により、エアコンが在庫不足で入荷できず売上にブレーキがかかっている。また、東京オリンピックでテレビ買い換えの特需を見込んでいたが、その兆しは無かった。

【商店街】

飲食店のみならず、一般小売店においても新型コロナウイルス感染症の影響が出ている。衣料販売などではコロナの影響で外出が少なくなったことから、売上の低迷が続いている。飲食に関しては、食材の価格が値上がりしているが販売価格に上乗せできない状態であることから利益が減少している。

【サービス業(旅行)】

前年対比で売上は増加しているが、前年の売上は「0円」である。今年は県民割引、秋田再発見の旅等の支援策があり少額ながら取扱いがあった。しかし、8割の組合員はまったく取扱いが無く、業界として窮境な状態であることに変化はない。

【サービス業(タクシー)】

飲食店街での新型コロナウイルスの感染の影響で、秋田市内の利用回復にブレーキが掛かった。一方、一部地域では、コロナワクチン接種でタクシーを利用する高齢者もあり、新しい需要の掘り起こしになった。

【建設業(電気工事)】

受注量は前年度並みに低調である。暑さのおかげかエアコンの販売量が若干増え、それに伴う電気使用容量変更の申込件数が増加している。

【運輸業(トラック)】

荷動きは6月の中旬ごろより増加傾向になったが、従来と比較すると低水準である。そのような中で、軽油が前年対比で約26円高くなっている。今後も燃料は値上がりする見通しであることから、さらに経営環境は厳しい状況になると考えられる。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。